

⑦ 「受診前情報の獲得と大田区の小児救急について」

東邦大学医療センター大森病院小児科

松裏 裕行 先生

本日は受診前情報の獲得方法と大田区の小児救急に関するさまざまな取り組みを紹介したい。

受診前の情報もいろいろあるが、まず病院へ子どもを連れてくる方が子どもさんの症状を知らないで診療に困難を来すことがある。検査だけで全てが診断できるわけではないので、治療を正確に行うためにも受診前の情報を記録したメモなどを是非持参していただきたい。私が勤務する東邦大学大森病院でも24時間365日必要な最低限の検査はできるようになっているが、昼間できる検査が必ずしも夜できるとは限らない。お子さんの体調が悪い場合には極力昼間の内にかかりつけ医を受診して判断を仰ぐようにしていただきたい。

誤飲、誤嚥（ごえん）の事故に関して、スライドに示す家庭用品の多くは少々量の口にしても無害である（スライド1）。万が一誤飲した場合には現物を持って病院を受診する、もし余裕があればホームページ（HP）などで情報を確認するのも有用である（スライド2）。スライド2は日本小児科学会が全国の保護者に情報を提供するために作ったもので、日本小児科学会、東邦大学大森病院、大田区3医師会のHPからもリンクが張ってある。このHPでは病気については敢えて詳細に説明せず、対処法が短時間で簡単にわかるようにしてある。異物誤飲なども安全なものはリストで分かるようになっている。ただし、インターネットでは誰が情報を提供しているか分からない場合もある。もし、HPを参考にする場合は日本小児科学会やいろいろな官公庁あるいは大学病院等が出している情報が信頼できる。

インターネットや育児雑誌を読んでも判断に迷う時は全国共通の#8000番という電話相談がある（スライド3）。

毒性が低い家庭薬品

- ◆ 化粧品
 - 口紅、乳液、ファンデーション、ベビーパウダー
- ◆ 洗浄剤
 - 石鹸、洗濯のり
- ◆ 文具
 - インク、鉛筆、クレヨン、粘土
 - 水彩絵の具（学童用）、
- ◆ 殺虫剤
 - 蚊取り線香、蚊取りマット
- ◆ その他
 - 線香、紙おむつ、体温計水銀、マッチ、ろうそく

東邦大学医療センター大森病院

（スライド1）

転ばぬ先の杖：普段から要チェック

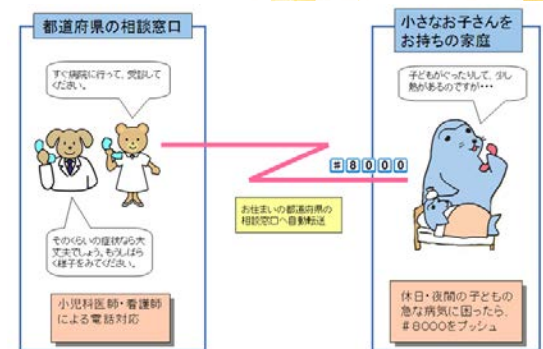
<http://kodomo-qq.jp>

東邦大学医療センター大森病院

（スライド2）

小児救急電話相談 #8000のイメージ

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2006/10/tp1010-3.html>



（スライド3）

これは厚労省が音頭をとって全国の自治体に全国共通の #8000 番の電話相談コーナーを設けたものである。自治体毎に対応時間帯が異なるが、保護者の不安を軽減するために、受診の必要性、ご家庭での看護法などを含めて看護師を中心とした相談員が懇切丁寧に話をしてくれる。個別に電話で症状や育児についても相談でき、利用価値の高い情報源の1つである。類似の制度として東京都では #7119 がある (スライド 4)。

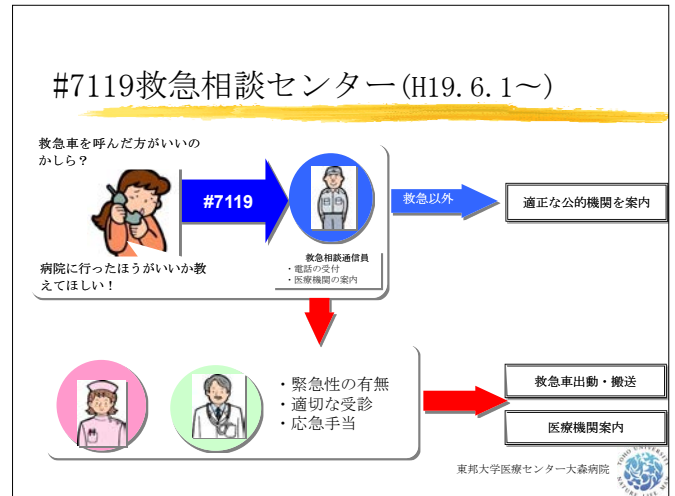
これは東京消防庁が東京都医師会、東京都福祉保健局、小児救急医学専門医の協力で実施しているもので、緊急性の判断とか受診必要性の判断、応急手当の指導、心肺蘇生なども電話で対応してくれるし、居住地から一番近い病院なども情報提供してくれる。

一方、大田区でも保健所を中心に子ども医療関係の事業が幾つもある (スライド 5、6)。大田区は東京 23 区の中でも、3 医師会、行政、区内の全ての病院が協力して小児医療をもり立てていこうという試みが成功しているモデル地区の一つであると思っている。太田区子ども平日夜間救急室は医師会の先生が東邦大学大森病院の救急室に来て私たちと一緒に子どもの急病を診てくださる制度で、大田区の補助金が使われている。さらに、本年度からは大田区小児初期救急医療整備構想が始まった。3 医師会と保健所を中心とした大田区と東邦大学医療センター大森病院、荏原病院、大森赤十字病院、蒲田総合病院、東京労災病院、池上総合病院など小児科医療に関係する医療機関が薬剤師会の協力を得て開始した。関係者全員で協力して救急医療の維持・継続、小児医療を拡大・維持していくための人材確保、区民への啓発活動などを進め、子どもの健康を守っていこうという制度である。

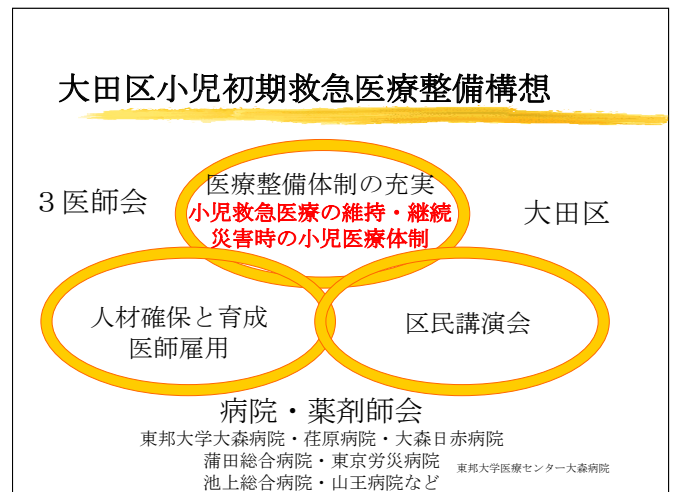
最後に、東京都医療機関案内サービス“ひまわり”(電話番号 03-5272-0303) では 24 時間、外国語も含めて病院、医療案内を行うことができる。また、東京消防庁のホームページ

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/kb/index.htm> でも救急病院の案内が行われている。

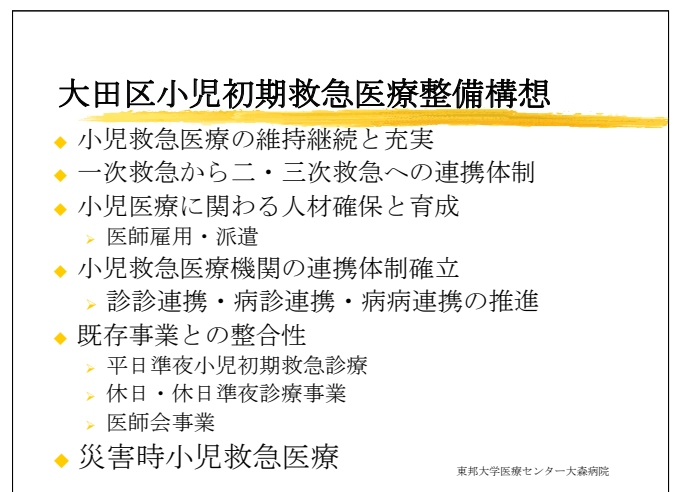
事前の心掛けでこういった制度を利用しなくてもすむよう、皆さまが子どもと楽しく過ごせることをお祈りしている。



(スライド 4)



(スライド 5)



(スライド 6)